

解説 20 「他の人の気持ち」を考える？

【課題のねらい】

私たちは自分の身近にあるものを、つい「当たり前のこと」として考えてしまいがちです。しかし、少し立ち止まってよく考えてみると、その「当たり前のこと」が本当は、とても不思議なことであるのに気づかされることがあります。「当たり前のこと」の背後に隠れている不思議に気づき、世界をその根底からもう一度考え直してみることに哲学の面白さがあります。哲学的考察の第一歩としてこの課題を設定しました。

【解説】

課題のお話のもとになっているのは、現代を代表する哲学者の一人トマス・ネーゲルが書いた「コウモリであるとはどのようなことか」という論文に登場するエピソードです。

「私」は私の心のなかで起きていることをよく知っています。そして、心のなかを見つめながら、自らの体を、また世界を観察し、たとえば「楽しい」時には自然と頬がゆるんで笑顔になるとか、こういうことが起こると「楽しい」気持ちがわき出すとか、そうしたことを学んでいきます。そして、同じ世界のなかに生きる他の人たちの振る舞いを確認して、自分が学んだ知識が正しいことを確認します——あるいは間違っていることを確認して自分が学んだ知識を修正します——。

確かに、「楽しい」というのは「愉快的な気持ち」であるとか、「満ち足りている気持ち」であるとか、「笑顔になるような感情」であるとか、そのような「客観的な知識」はすべての人にあてはまることでしょう。その意味で、私の「楽しさ」と、他の人の「楽しさ」は「同じ」であると言うことができます。

しかし、そのような客観的な知識は、私の「楽しさ」を十分に表現しているわけではありません。なぜなら、愉快であるとか、満ち足りているとか、笑顔であるとか、そうした「言葉」は、私が心のなかで感じていることを指し示してはいますが、私が心のなかで感じているものそれ自体ではありません。じっさい、私たちがこれまで感じてきた、さまざまな楽しい気持ちは一つ一つ、微妙にどこか違っていて、愉快だとか満ち足りているとか、そうした「言葉」によってすべてを言い尽くすことができるようなものではなかったはずで

私がいま心のなかで感じているもの、これを感じることはできるのは、私のほかには誰もいません。同様に、私は他の人が心のなかで感じているものを、彼／彼女の言葉や表情を通して推測することができますが、しかしそれを感じることはできません。この意味では、私の「楽しさ」と他の人の「楽しさ」は同じものではない、あるいは少なくとも同じかどうかは分からない、と言うことができます。

2つの見方の違いは、客観的な知識と、主観的な認識の違いと言い換えることができます。

自然科学は私たちに、世界についての、また人間についての客観的な知識を教えてください。しかし、自然科学は主観的なことから、つまり私が何をどのように感じ、どれほどの強さでそれを受け取るのかといったことまでは明らかにしてくれません。それはおそらく、「私」だけの秘密であり続けることでしょう。

さて、もしこのように主観的なものの感じ方、感覚が「私」以外の誰にも分からないのだとしたら、私たちは厳密な意味で、「他の人の気持ち」を知るということはできません。それどころか目の前の人が、自分と「同じ」人間であるかどうかさえ不思議に思えてきます。もしかしたら、道行く人々はみな、私と同じ人間なの

ではなく、巧妙にプログラムされた機械なのかもしれません……。

とはいえ、そこまでいくとおそらく疑いすぎでしょう。私たちは確かに歴史のなかで、そしてまた今日でも日々の生活のなかで、他の人々と喜びを分かち合い、悲しみに心を寄せて、思いを共にしてきました。同じ人間として心が通じ合う瞬間を、きっと誰もが経験したことがあるはずで。

私たちは、他の人の気持ちを完全な仕方では知ることができません。しかし、それでも互いに理解し合い、協力して人類の歴史を築き上げてきました。これは無視できない現実です。

知りえないはずの他者に、どのようにして共感することができるのか、この問題に対して私たちは未だ十分な答えを持っていません。もっとも身近でもっとも不思議な存在である「他者」という存在。哲学では、この「他者」の不思議について考察する分野を「他者論」と呼んでいます。どのような答えを与えるにせよ、この問題には私たち一人一人が真剣に取り組む必要があるでしょう。

もちろん「他者論」に限らず、哲学のなかには、奇妙で不思議な、さまざまな興味深い問題があります。哲学では、どのような問題が議論されているのか。先にあげたトマス・ネーグルの著作のほかにも、イラスト入りの分かりやすい入門書を参考文献として挙げておきますので、ぜひ一度手にとってみてください。

参考文献

- ・ネーグル、トマス『コウモリであるとはどのようなことか』永井均訳、勁草書房、1989年
- ・斎藤哲也監修、田中正人著『哲学用語図鑑』プレジデント社、2015年
- ・斎藤哲也監修、田中正人著『続 哲学用語図鑑』プレジデント社、2017年
- ・哲学思想研究会編『図解哲学 人物&用語事典』日本文芸社、2015年